令和5年度新里福寿大学

第2回講座

講義　「徳川家康」

○日　時
令和5年6月6日（火曜日）
午前10時～12時
○場　所
新里総合センター3階大会議室

藤　井　先　生

令和５年度新里福寿大学の第２回講座は、藤井実先生の歴史講座です。
内容は、「徳川家康」についてお話しをいただきました。

◎徳川家康の辿った道

家康は、１５４２年（天文１１年）に松平広忠と於大の方の嫡男として岡崎城にて誕生します。幼少期は、３歳の頃に母於大との別れ、５歳の頃に織田信秀の人質となり、７歳の頃に今川義元の人質となり、寂しく肩身の狭い境遇であった。
家康の転機は、1560 年（永禄３年）の桶狭間の戦いで義元が没することにより、岡崎城に帰還することから始まります。武田信玄の南下政策により、三方ヶ原の戦いが起こり、何もしなければ領民の信頼を失うという考えや浜松城を素通りされては武士としての面目が立たない等の考えが読まれてしまっていた。又、透破（忍者）等によって偽情報を流されて得意な野戦に誘導されてしまい三方ヶ原で魚鱗の陣で待ち構えられてしまう。家康は、他人の土俵で相撲をとってしまい人生で最大の大敗を期すことになる。しかし、敗れても周到な計画と万全な体制で臨んだ信玄を「生涯の鑑」と尊敬したそうです。
その後も金銀鉛等の鉱山を巡る争いであった長篠の戦いや信康事件等苦悩の連続であったが、生き延びて、後に天下を取ることになる。正に家康の人柄があったからこそ成し遂げられたものだと感じました。
講師の藤井先生、丁寧にわかりやすく説明していただきありがとうございました。
皆さんも歴史に思いを馳せて各地にある家康ゆかりの地に出かけてみてはいかがでしょうか。

家康の祖は、１５世紀初めに三河国松平郷に地盤を築いたのが始まりであったという。
初代の親氏は、群馬県尾島の東照宮の近くの得川という地名の僧で徳阿弥と名乗り、後に西へとくだり最終的には松平郷へ辿り着き松平太郎左衛門の婿養子になり、家康の祖の「松平家」となったとのことです。後に徳川の姓の由来ともなるそうです。

講座風景